

特 集

時代のコンテクストと企業家活動

『企業家研究』では、新しい試みとして特定のテーマによる論説の募集を行い、会員からの積極的な投稿を募ることになりました。その第1回の特集テーマとして「時代のコンテクストと企業家活動」を設定し、今号において査読を通った論説の掲載を行うことができました。

今回の特集テーマ「時代のコンテクストと企業家活動」を設定した理由は以下のとおりです。

企業家は、自身が生きる時代あるいはその少し先の未来を見据え、新たな事業機会を見出し、新たな価値を創出します。その時代の企業家が生み出したイノベーションは、後世の社会において日常的な製品・サービスになっているかもしれませんが、企業家が事業を立ち上げた時代においては、人々の偏見や法律・制度の未整備、あるいは関連業界の未発達などにより、企業家は様々な困難に直面しつつ、課題を解決し、新事業の創出を成し遂げたことでしょう。その意味で、企業家活動と企業家が生きた時代のコンテクストは切り離せない関係にあり、企業家活動の意義もコンテクストによって異なります。こうした観点からの研究によって、企業家を創出する環境の整備や起業の促進にかかる有益なインプリケーションが得られることを期待し、特集テーマを設定しました。

特集に投稿された論説は4編でした。そのうち以下の2編が査読審査を経て本誌に掲載されることになりました。

山田幸三

「産地の自己革新と企業家活動——有田焼陶磁器産地の事例を中心として」

鹿住倫世・河合憲史

「女性の起業支援策と女性起業家の自己効力感——日本のデータから」

山田氏の論説は、江戸時代から続く有田焼陶磁器産地の伝統というコンテキストと、近年の産地の経済的低迷や消費者の生活様式の変化といった新たなコンテキストの中で、自己革新を実現した産地企業の経営活動を企業家活動ととらえて論じています。鹿住・河合の論説は、安倍政権が提唱する「一億総活躍社会」の実現、女性活躍支援というコンテキストにおいて女性の起業が脚光を浴びる中、女性起業家の実情に即した支援策のあり方を提示したものです。

全く異なる分野の2編の論説ですが、時代のコンテキストとそれに影響される企業家活動の在り方について、会員の皆様に何らかのヒントを提供できたのではないかと思います。

最後に、特集への投稿とは別に、通常の論説等の投稿も数多く寄せられました。そのため、審査には編集委員の他、学会外の当該分野の専門研究者の方にも多数ご協力をいただきました。お忙しいところ、丁寧な審査コメントをお寄せくださったレフェリーの皆様には感謝申し上げます。また、全体の統括、スケジュール管理等、編集委員会の粕谷誠委員長にも多大なご尽力をいただきました。ここに御礼申し上げます。

特集は次号以降も継続されることになりました。日々取り組んでおられるご研究を特集テーマの観点から見直していただき、ぜひご投稿くださいますようお願い申し上げます。

特集担当エディター

鹿住 倫世